

平成 27 年度 移行期医療検討委員会活動報告

2015 年度第 2 回日本小児血液・がん学会移行期医療検討委員会を 2015 年 11 月 29 日 8:00~9:00、甲府富士屋ホテル 4 階 「つばき」で行った。

出席者：石田也寸志、尾花和子、清谷知賀子、富岡晶子(丸光恵先生代理)、前田瑠美(丸光恵先生代理)、前田美穂(委員長)

議事

1. トランジションステップについて、清谷先生から成育医療センターでの実際を含めながら報告があった。

初発の年齢にもよるが、6 歳ぐらいから体の仕組みを理解させる話を開始し、7 から 9 歳ぐらい小児がんという疾患への理解、10 から 12 歳ごろには、現在の治療内容、本人が抱えている合併症などを理解させ、晩期合併症の種類、症状への理解、体調管理や医療機関受診への理解、二次性徴、生殖への理解、心の準備と安定、トランジションの準備などを考えて実行させることを目標にする。医療者側の準備として患者さんの年齢にかかわらず、臓器評価、発達や認知機能の評価、感覚器、身体機能、生活機能の評価、学習支援、社会的支援の必要性の確認、治療サマリーの作成などの連携用医療情報の準備、各科へのトランジションに関しての共有化などの徹底を行う。また年齢に合わせた小児地域医療、および成人医療、専門診療機関受診の希望と確認の準備、家族への面接などを行いながら、ステップを進める。

2. 今後の方針に関しては、新しい理事長の元で体制が変わるので、それがはっきりしてから、再度話し合う。
3. 日本小児科学会の慢性疾患移行期医療支援 WG と連携していく。